



東北 復興日記

まだまだ

▶▶▶ 220



J A 共済総合研究所研究員
大友和佳子さん

東日本大震災をきっかけに、私の故郷の宮城県名取市では地域づくりの取り組みがいくつも生まれました。三、四十歳代を中心に名取の「固有の宝」を見つけて次世代に伝えるグループ「名取の未来創造」もその一つです。主なメンバーは私を含め、市議、研究員ら六人。毎月一度、集まって活動を



名取の魅力語る人材育成

しています。

名取市の特徴は、里山や田畑、海産物、花きなど、第一次産業の資源に恵まれていることです。仙台市のベッドタウンとして急速に都市化しましたが、こころした固有の宝を若い世代は知らずに育ったとも言えます。しかし、震災が若い世代の目を地域に向けさせ、名取に根付く大切な資源を次世代に受け継いでいく重要性に気付かせました。

私たちが二〇一四年から積み重ねている活動の目的は、こころした地元の魅力を発信するためです。一五年のテーマは食文化Ⅱ写真。地域ごとに違う米の製法、味、土の違いなどを説明しながら、同市関

アリングしています。これは「地域の固有性」を発見する手法で、東北大の古川柳蔵准教授が提唱しています。私も都市化した名取しか知らなかったのですが、かつて第一次産業が隆盛だった地域を見つめ直すことにつながっています。今後は、地域外の人々を対象に、発掘した固有の宝を訪ねるツアーを実施し、地域の魅力と誇りを語れる人材の育成を目指します。

※この連載は、東京のNP
O 法人JKSKと、被災地の
女性たちが協力して復興に取
り組む「結核プロジェクト」の
協力を得て、掲載しています。